

異なる状況における連帯 ——欧州の精神障害者の組織の東欧における活動に注目して

伊 東 香 純
(日本学術振興会)

1 はじめに

1.1 先行研究の検討

精神障害者の社会運動についての研究は、主に1960年代以降の米国と英国の運動を対象に、精神医療に対する主張に注目してきた。米国では、1980年代後半、精神医療において耐え難い苦痛を受けた経験から精神医療を廃絶すべきと主張するサバイバーと、精神医療の非自発的な拘禁や治療といった実践にも有用な側面はあるとして状況の改善を目指すコンシューマーの間に激しい対立があった(Morrison 2005)。同時期、英国では、それまで精神医療の専門職と同じ運動体で活動してきた精神障害者が米国などの運動を知り、精神障害者単独の組織が発足していったとされている(Crossley 2006)。英米以外の地域については、重要な出来事に関する研究はあるものの、通史が描かれるには至っていない。

大陸規模、世界規模の運動に関してはいっそう蓄積が少ない。欧州規模の組織については、組織のメンバーでも研究者でもある人たちによる論考がいくつかある。ドイツのレーマン(Peter Lehmann)は、欧州の精神障害者のネットワークと、精神医療の専門職などの欧州規模の組織の、活動資金や活動目標の違いを分析している(Lehmann 2009)。また、欧州規模と世界規模の両方の組織の活動の概略、特にインターネットが普及した後の運動の方法について記している(Lehmann and Jespersen 2007)。これらの研究は、精神障害者の組織とその外部の組織との関係に主要な関心があり、組織内部の議論に関してはあまり触れていない。他方、伊東香純は、欧州規模のネットワークの発足の過程を記述した(伊東 2019)。しかし、西欧、北欧の精神障害者による組織の発足に向けた準備に焦点が当てられており、東欧における活動についてはあまり言及されていない。

東欧の精神障害者の活動についての数少ない研究として、英国の精神障害者の運動で活動してきたローズ(Diana Rose)とハムレットトラストで相談役や取締役を

担ってきたルカス(Jo Lucas)による、欧州における精神障害者の各地域の運動の歴史と欧州規模のネットワークの活動の経緯を基にした、精神保健政策における精神障害者の関わり方の分析がある。そこでは欧州規模の活動に関しては、精神障害者のネットワークの総会等での決定事項や各国の精神障害者の団体数などが書かれている。さらに、東欧における精神障害者の運動に関しても比較的詳細に書かれている。しかし、国内の運動に主に焦点が当てられており、欧州規模の運動に東欧の精神障害者が参加する過程についてはあまり書かれておらず、ネットワーク内部における東欧の参加に関する議論には触れられていない(Rose and Lucas 2007)。

東欧の精神障害者の運動についての研究が少ない理由を考えるために、東欧地域の精神障害に関する研究に注目すると、政治体制と精神医療との関係に焦点を当てた研究が重ねられてきたことがわかる。英国の精神科医のブロック(Sidney Bloch)と政治学者のレダウェイ(Peter Reddaway)は、1917年のロシア革命頃からのソヴィエト精神医学について、政治的な目的で利用されていた背景や事例の検討、及び1960年代後半から徐々にその実態が国際的に知られるようになり、西洋諸国から批判された経緯を描いている(Bloch and Reddaway 1977=1983)。ブルガリアの精神科医のトモフ(Toma Tomov)らは、かつての東側諸国に含まれていた地域について、東欧革命後の各国の精神医療を巡る実態を明らかにしつつ、地域で精神医療を実践していくための課題を歴史的背景を踏まえて指摘している(Tomov et al. 2007)。また、国際的なNGOであるヒューマンライツウォッチは、中国の精神医療と政治の関係について論じる上で、精神医療の政治的な利用に対する国際的な関心が高まった最初の事例として、ソヴィエト精神医学に言及している(Human Rights Watch and Geneva Initiative on Psychiatry 2002: 31-33)。

また、拘禁された者の視点からの著作もある。1970年、ソ連の生物学者で歴史学者であったメドヴェージェフ(Жорес Александрович Медве́дев)は、著書『ルイ

センコ学説の興亡』の内容に問題があるとして精神病院に拘禁された。その後、双子の弟を中心に学術界の知人などが国境を越えて協力し、約3カ月後に解放されたという経緯を記した兄弟の著書では、医学的理由と政治的理由とを区別することの重要性が繰り返されている (Medvedev and Medvedev 1971=1977)。このように政治的な理由で精神障害者とされた人たちの活動に関しては一定の報告がある。しかし、社会主義体制にあった地域の精神障害者の社会運動における精神医療の政治利用を批判する以外の活動は、ほとんど注目されてこなかった。

1.2 研究目的と方法

先行研究が主な対象としてきた英米の精神障害者の社会運動は、西洋的な精神医療の改良あるいは廃絶を目指す運動として説明されてきた。このような説明は、西洋的な精神医療の普及のしかたの異なる、冷戦時代に社会主義体制にあった地域の運動には、当てはまらなく考えられる。他方、社会主義体制を採っていた東欧地域の精神障害者に関しては、政治と精神医療の関係に焦点を当てた研究が主であり、精神障害者の運動に関しても反体制的な意見を持っているという理由での、精神病院の拘禁に抵抗する活動が注目を集めてきた。このように先行研究では、各地域の運動が別々に検討され、その地域の文脈を踏まえて考察されてきた。このため各地の運動における、異なる状況にある活動家との連帯という側面には分析が及んでいないという問題点が指摘できる。

そこで本研究は、精神障害者の欧州規模の組織において、西欧や北欧地域の精神障害者が、どのような意図で東欧地域の精神障害者とともに活動しようとしたのかを明らかにすることを目的とする。これにより、これまで検討されてこなかった東欧の欧州規模の運動の歴史を明らかにできるほか、これまで検討されてきた西欧の運動のトランスナショナルな連帯の在り方という新たな側面を指摘できる。

本研究は、「欧州精神医療（元）ユーザー・サバイバーネットワーク（European Network of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry: ENUSP)」¹⁾を検討の対象とする。ENUSPは、欧州における精神医療のユーザー、サバイバーの組織及び個人の組織である。（元）ユーザー、サバイバーとは、「精神医療サービスをかつて受けていた、あるいは現在受けている人たち」のことを指すが、「この用語は個々人の定義に基づいて使用、理解される」。また、（元）ユーザー、サバイバーの組織には、「完全に（元）

ユーザー、サバイバーによって成っている組織」のみならず「組織の運営を担う人の過半数以上が（元）ユーザー、サバイバー」である組織も含まれている。ENUSPの目的は、「私たち「精神医療のユーザー、サバイバー」の権利と利益を促進、擁護、保護するために、精神医療のユーザー、サバイバーの欧州の基盤、そして声となること」である (ENUSP 2014: 1-2 [内引用者])。精神障害者と医療専門職や家族の混合の欧州規模の組織は、ENUSPの他にもいくつか存在するが²⁾、メンバーをユーザー、サバイバーに限定し、本人の声を代表することを目的としている組織は、ENUSPしかない。本研究では、精神障害をもつ本人たちの活動を明らかにするために、ENUSPを対象とする。

東欧の範囲について、国境も地域の境も時代や分割の目的によって変化するものである。本研究では、ENUSPにおいて東欧として扱われてきた範囲を東欧とする。ENUSPは、欧州を5つの地域³⁾に分けて各地域から理事を選出し、組織を運営してきた。この区分を参照する。これによりENUSPにおいて、東欧がどのような地域として扱われてきたのかより明確になると考えられるためである。また、本研究は、ENUSPの1991年の第1回総会から1999年の第4回総会の前までを対象とする。理由は、この時期ENUSPでは東欧での活動が重要な課題の1つとして認識されていたこと、第3回総会のあと資金難となり東欧への支援が比較的不活発になったことである。

ENUSP及び関係組織の活動を明らかにするための方法として、文書史料と口述史料を収集した。文書史料は、ENUSPの総会や理事の会議などの史料である。口述史料としては、2018年から19年にかけてENUSPのメンバー4名に半構造化インタビューを実施した。インタビューの概要は、表1の通りである。インタビューはすべて英語でおこない、実施後、文字起こしを送付して内容を確認してもらった。

表1. インタビューの実施状況（実施順）

実施日	時間	実施場所	インタビューー	活動地域
18/8/2	194分	インタビューー宅	ジェスパerson (Maths Jespersen)	スウェーデン
19/8/31	88分	インタビューー宅	レーマン (Peter Lehmann)	ドイツ
19/9/2 及び9/3	174分	インタビューー宅	ジェンセン (Karl Bach Jensen)	デンマーク
19/9/10	76分	スカイプ	ルソ (Jasna Russo)	ドイツ

4名とも共同議長や理事などの役割で ENUSP の活動をリードした活動家である他、うち3名は、友人や家族として、あるいは地元の組織を通じて、ENUSP 発足以前から東欧地域と関わりを持っていた。ジェスパーソンが活動していたスウェーデンの組織は、政府の国際開発機構の助成を受けて、ポーランドのワルシャワの精神障害者の組織を支援していた。2週間に1度、果物を輸入するトラックがルンドからワルシャワに行く際、空のトラックに食べ物や衣類を詰めて運んでいた。そして、自分たちのスウェーデンの組織のことをワルシャワの人に話していた (Jespersen interview)。レーマンは、主に東ベルリンを通じて東欧との関係を持っていた。レーマンの家族は、冷戦当時、ドイツ民主共和国にもおり、家族や幼いころの友人を訪ねて、ライプツィヒに行ったとき、違法なことをしている集団に会ったり、雑誌をあげたりしていた。施設収容されていた人々は、ドイツ民主共和国では仕事をもらえないため、「若年年金者」⁴⁾として東ベルリンから西ベルリンへの境界を通ることができた (Lehmann interview)。ジェンセンの東欧地域の運動との関わりは、主に ENUSP の発足後である。ジェンセンは、1980年代から国内の運動に参加し、ENUSP には発足時から精力的に参加してきた。ジェスパーソンによると、1990年代ジェンセンは ENUSP の「組織運営の仕事の97パーセントほど」を担っていたという (Jespersen interview)。ルソは、ユーゴスラビア連邦のベオグラードの2つの精神医療施設で、20歳から27歳までの間に非自発的な入院と治療を受けた。その間の1987年、友人に会うためにドイツを訪れたとき、ドイツに精神障害者の組織があることを知った。その組織を訪問してみようという話になって電話をかけたとき、担当者は精神医療の経験があるか尋ね、2人があると答えると訪問が許可された。このような経験はルソにとって初めてで、とても重要なものであったという。その後、1991年、父親の同意によって2度目の入院を経験したときルソは、今後とも望まない入院が起きるのではないかと考え、ボスニアとの戦争による政治状況の悪化等の事情も勘案して1992年にドイツに移った (Russo interview)。

2 社会主義体制下の精神医療に対する批判

1917年の2度の革命から数年の後に成立した、ソヴィエト連邦における医師の誓約では「その業務を遂行する時に、共産主義の価値観を追求すること」を要求しており、スターリン (Ио́сиф Виссарио́нович Ста́лин) は

精神科医の意義づけについて「政治的能力が、専門的な能力と経験に優先する」と述べていた (Block & Reddaway 1977=1983: 16-17)。その後、ソ連において精神医療が政治的な目的で利用されている状況が、1960年代頃から西洋によって問題視されるようになっていった。

1970年代、学生時代に米国共産党のメンバーだったサブシン (Melvin Sabshin) が、アメリカ精神医学会のリーダーシップをとるようになると、同会は会員数も予算規模も急速に拡大した。そして、異なる環境における診断の比較が可能となるように「精神障害の診断と統計マニュアル」の改訂を進めていった⁵⁾。サブシンは、ソ連における精神医療の政治的な乱用は明確な診断基準の欠如によって引き起こされたと考えていた (Van Voren 2010: 187-192)。1982年8月にアメリカ精神医学会は、他の国の精神医学会に手紙を出し、1983年7月の大会の前にソヴィエト精神医学会の会員資格の一時停止あるいは除名について議論したいと考えている旨を通達した。ソヴィエト精神医学会は、アメリカ精神医学会からの手紙に激怒し、1983年2月に世界精神医学会を脱退した (Van Voren 2010: 200-201)。

アメリカ精神医学会などの働きかけにより、国連人権委員会でこの問題を議論することとなった。各地の精神医療の状況の調査が進められ、それを踏まえて1991年の国連総会で「精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則」が採択された。この過程では、精神医療の非自発的介入の基準が中心的な論点となり、結局「ヨーロッパでひろくおこなわれている医師権限による入院形式」に改められた草案が微修正の上で採択された (青木 1993: 78)。

このように、ソ連など社会主義体制にあった地域における精神医療の実践に対して、西洋の政府や国際的な医療者の組織などによって、強い批判と改善に向けた活動がおこなわれていった。その改善の方法は、西欧や北米で使われてきた診断や非自発的介入の基準をソ連や東欧にも導入することによって、社会主義体制下及びその体制崩壊後の地域において精神医療を改善しようというものであった。

先行研究も指摘してきたように、社会主義体制下の精神医療のあり方を批判したのは、医療専門職の団体ばかりではない。ジェンセンによると、体制に反抗した人に統合失調症のレッテルを貼り、政治的な脅威として監獄の代わりに精神病院に拘禁するといったシステムに対する批判は、西欧社会においては大衆の支持が得やすかつ

た。また、東欧の一部では人間を動物のように檻に入れる等「今では夢にも思わないこと」がおこなわれていた。これに対して多くの国際的な NGO が東欧に行き、実態を明らかにし、変革を求める人々の支援をしようとした。中でも欧州の NGO が多く東欧に行き、その 1 つがハムレットトラストであったという (Jensen interview)。

ハムレットトラストは、「精神保健の問題をもつ人々のための代替的なサービスの発展を助けるために 1988 年に発足した」。本部は英国にあり、活動の焦点は、「共産主義の崩壊後の社会的、経済的な激動の只中にある地域社会と共に活動すること」にある。中欧、東欧、中央アジアでのサービス利用者自身による組織の結成、支援、発展のために活動している (Hamlet Trust 2020)。ローズとルカスによると、ハムレットトラストのネットワークの多くの組織は、精神医療の専門職によって設立された。その専門職たちは、多くの場合若く、ユーザーを参加させたり参加させなかったりしつつ、自分たちの組織を作りたいと考えていた。変化を起こすには精神医療体制から抜け出す必要があると考え、少ない資源や権力を分け合おうとしていた。しかし、その専門職たちはユーザーによる活動の実効性には懐疑的であったと説明されている (Rose and Lucas 2007: 348)。

このようにハムレットトラストも、社会主義体制下の精神医療の在り方に対する批判的な姿勢は、アメリカ精神医学会等と共有していた。ただし、ハムレットトラストは、精神医療の改善ではなく、地域社会における精神障害者の活動の促進を目指していた点で、アメリカ精神医学会などとは活動の目標が大きく異なっていたといえる。

3 ENUSP 発足当初

本節では、ENUSP の発足までの経緯と、発足当初の東欧地域との関係を記述する。イタリアのトリエステでは、1978 年に法律 180 号、833 号が成立した。これによって精神医療は、一般医療に統合され、原則として治療や予防は、病院の外の拠点で、本人の意思に発して実施されることになった (松嶋 2014: 84-86)。これは、急進的で先駆的な改革として世界的に有名になった。精神障害に関わるさまざまな立場の多くの人がトリエステに見学に訪れ、そこでの出会いをきっかけとして、情報交換などのためのネットワークが精神医療の専門職を中心に形成されていった。伊東 (2019) は、このようなネットワークが ENUSP 結成前の重要な出会いの場であったことを指

摘している。また、精神医療の専門職や精神障害者等の世界規模の合同の組織である世界精神保健連盟 (World Federation for Mental Health: WFMH) は、1985 年に英国のブライトンにて世界大会を開催した。WFMH は精神科医が主導してきた組織であり、1985 年の世界大会は、WFMH の大会の中で初めて精神障害のある本人が招待された大会であるとされている (Jespersen interview)。WFMH の世界大会に合わせて、英国の精神医療者や精神障害者、家族などの合同の全国組織であるマインドも総会を開催した。総会には、米国やオランダから精神障害者の活動家が招待され、その際に英国の精神障害者は、海外には精神障害者だけの組織があることを知った。そして、その影響を受けて 1980 年代後半に「サバイバーは発言する」と「英国権利擁護ネットワーク」という 2 つの精神障害者の全国組織が結成された (Crossley 2006: 180, 188)。

ENUSP の第 1 回総会は、1991 年にオランダのザンドフォールトで開催された。伊東によると、第 1 回総会における東欧からの出席者はポーランドの人だけであった。この状況に対して、東欧からのメンバーを迎える必要があるとされ、ポーランドの運動と交流を持っていたスウェーデンの組織には、東欧諸国と連絡を取るという課題が割り当てられた (伊東 2019: 208)。

ENUSP の第 2 回総会は、1994 年 5 月 26 日から 29 日にデンマークのエルシノアでおこなわれた。欧州の外から招待された米国とニュージーランドを含めて 25 カ国からの 70 名のメンバーのほか、8 名が通訳者として出席した。東欧からは、ポーランドから 4 名、チェコ共和国から 3 名、ルーマニア、ハンガリー、旧ユーゴスラヴィア連邦からそれぞれ 1 名が参加した。旧ユーゴスラヴィア連邦から参加したのはルソであった。総会では分科会が 5 つ企画されていた。「自己決定、社会統合、福祉」というテーマの分科会では、精神医療を受けた経験をあまりもたない東欧からの出席者が多かったため議論は難しかったと報告された。しかし、参加者たちは、これからも東欧のような地域と、精神医療を受けた長い経験をもつスカンディナヴィアや英国のような地域の両方がいた方がよいと考えていた。東欧のユーザーの望みの一つは、全国規模の連帯をつくることであり、すでに全国規模の連帯を確立している地域がそれに協力できるとされた。フロアからは、東欧地域の全国組織について、新たにつくるのではなく既存の組織の中に入ることで大きな力を得ることができるのではないかという提案や、東欧の社会構造や問題は西欧とは大きく異なっており、西欧で成功

した方法をそのまま使えるわけではないという意見が出された (European Network of Users and Ex-Users in Mental Health 1994: 23-25, Appendix II, IV)。

ルーマニアのマリン (Mihai Marin) は、第2回総会に出席した際に、スウェーデンのジャーナリストからインタビューを受けた。それは、総会についての記事の一部として『南スウェーデン日刊新聞 (Sydsvenska Dagbladet)』に掲載され、英訳がENUSPのニュースレターに掲載された。記事では、当時27歳のマリンが、10回の入院を経験し、大量の向精神薬と20回の電気ショック療法を処方されたことや、頭に拳銃を突き付けられて、共産主義体制に反対すると言った理由を説明させられ、秘密警察によって精神病院に拘禁された経験が書かれた (European Network of Users and Ex-Users in Mental Health 1995a: 7)。また、民主的反対派 (democratic opposition) が、政党の雑誌において、ブシュテニ市の議員を政治的な理由で「精神錯乱」になったと中傷した例や、10代の少女が共産主義順応主義 (communist conformism) に賛同していないために両親によって精神病院に入院させられ、向精神薬を大量に処方されたために服薬をやめられなくなった例も伝えられた (European Network of Users and Ex-Users in Mental Health 1995b: 4)。

第2回総会では、組織の運営機関として理事会が設置され、理事たちは各理事の活動地域を回りながら会議を開催するようになった。1994年8月に開催された、第1回目の会議では、東欧との協力が議題の1つになった。協力は、連絡先を交換し、東欧の状況を把握するところから始まった。ENUSPは、世界保健機関の精神保健分野の地域アドバイザーを通して、東欧の国の連絡先を聞いた。また、デンマークの精神医療専門職と精神障害者などの合同の組織であるSINDが、同年11月25日から27日にWFMHの欧州地域評議会と共に、全国規模の精神保健連盟についてのセミナーを開催予定だとの報告があった。ポーランド、チェコ共和国、スロヴァキア、ブルガリア、ルーマニア、クロアチア、スロヴェニア、ハンガリー、エストニア、ラトヴィア、リトアニア、アルバニアの12か国から、それぞれユーザー、家族、専門職1名ずつに出席してもらうことになっていた。資金は、WFMHの欧州地域評議会とデンマーク政府が拠出する予定だった。そのセミナーの場で、ジェンセンがユーザーの出席者にENUSPの連絡先を教えることが合意された。ENUSPからは、ルソとジェスパーソンも出席予定だった (European Desk 1994a)。

1994年12月に開催された第2回目の理事の会議で、南

欧地域の理事は、南欧の約40の団体と連絡がとれているものの、イタリア、スペイン、ポルトガルが主であり、ギリシャの団体とは連絡がついていないことを報告した。ポーランドでは、チェコ共和国の団体と協力して、1995年5月にユーザーの全国組織を発足させる予定となっていた。ルーマニア、ハンガリーの運動のことはまだ分からないと報告された。ジェンセンは、デンマークで開催されたある会議の際に、東欧のユーザーたちが西欧の強いパターンリズムに晒されていたと報告した。参加者たちの中には、東欧のいくつかの国のユーザーの運動は欧州連合に加盟していたスペイン、ポルトガル、ギリシャといった地域よりもよく組織されていることを忘れている人たちがいたという (European Desk 1994b)。

ここからENUSPは、主に西欧の医療専門職を中心としたネットワークを介して出会い、発足当初は西欧のメンバーが中心的な役割をになっていたといえる。しかし、東欧との連帯の重要性は、当初より表明され、徐々に達成されていった。ENUSPも、東欧の精神医療の政治的な利用について、精神医療者の組織やハムレットトラストと批判的な姿勢を共有していた。さらにENUSPは、ハムレットトラストと同様に、東欧の精神医療の改善ではなく精神障害者の社会運動の促進を目指していた。次節では、東欧において同様の活動をしようとしていたと思われるハムレットトラストとENUSPの関係をみていく。

4 ハムレットトラストとの協力

1990年代、英国には強力な精神障害者の運動があり、ENUSPの総会にはイングランド、スコットランド、ウェールズの人が、それぞれ別々の国の代表者のように参加していた。このためENUSPが、ハムレットトラストについて知りたいときには、彼らに手紙を書いて質問したり活動に招待したりできたという (Jensen interview)。ルソによると、ハムレットトラストは、東欧の精神医療を人道的にすることに活動の焦点があり、ENUSPの支援ではなかったものの、ENUSPに非常に友好的であった (Russo interview)。

1994年10月にハムレットトラストは、ワルシャワでワークショップを開催した。その事前の準備としてハムレットトラストは、ENUSPに東欧のユーザーの連絡先を訪ね、ENUSPの議長だったジェンセンを招待した。ただし、ENUSPにとって、自分たちとハムレットトラストは競合関係にあるように思われ、また、機会をあまり与えられなかったために、ワークショップの場でENUSPの

ことを宣伝するのは難しかったという。また、ハムレットトラストは、英国のユーザーの運動と緊密な関係にあるかのような印象を与えていたが、実際にはそうでもなかったように思われた。ジェンセンは、それでも資金提供を受けられるのならば、ポーランドのユーザーたちはハムレットトラストを使いつづけた方がよいと話している。ハムレットトラストはポーランドにも事務所をもっていたものの、その当時ユーザーの団体に資金提供はされていなかった（European Desk 1994b: 6-7）。

ルソは、ENUSP の理事として何度かハムレットトラストのセミナー等に講師等として関わったのちに、相談役（consultant）として雇われた。ハムレットトラストは、ルソの仕事を非常に気に入って、東欧でのトレーニングの担当を依頼したという。ルソはトレーニングのために、ルーマニア、ハンガリーに2回ずつ、ポーランド、エストニアに1回ずつほど訪問した。トレーナーは、ルソの他にも英国の「サバイバーは発言する」のメンバーやハンガリーのゴンボ（Gábor Gombos）⁶⁾などのサバイバーの活動家のほか、人権分野で仕事をする人やハムレットトラストの相談役になっている人が担当していた。トレーニングは、特定のテーマについての2時間ほどのもので、他にもルソは東欧で会議やワークショップ等を開催していた（Russo interview）。

これらのことからENUSPとハムレットトラストは、東欧の運動の連絡先を共有したりハムレットトラストがENUSPに資金提供したりするなど、協力関係にあったことがわかる。しかし、ENUSPは、ハムレットトラストに対して競合関係にあるとも感じていた。次節では、東欧のメンバーが活発に参加するようになった時期のENUSPの活動をみていく。

5 東欧地域の活動の活発化

1997年1月3日から6日まで、ENUSPの第3回総会が、学生がいない時期の英国のレディング大学の施設を使用して開催された。参加者は、22か国から76名であった。東欧からは、チェコ共和国、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキアから9名が参加した⁷⁾。ルソは、ドイツの活動家として出席していた（ENUSP 1999: 24-25）。ルーマニアのマリンは、第2回総会には米国の大使館を通じて出席したが、このときは精神医療が出国を許さず、参加できなかった。また、アルバニアから参加予定だった2名はビザが間に合わず渡航できなかった（ENUSP 1997: 14）。東欧地域では、ビザ取得は大きな負担である

場合が少なくなかった。ジェスパersonによると、1997年にフィンランドのラフティで開催された精神障害者の世界組織の総会に参加を希望していたブルガリアの女性は、ビザの申請料が1カ月分の給与と同額であったため、渡航を諦めた（Jespersen interview）。ハムレットトラストは、東欧からの参加者の渡航費用を支援した⁸⁾。

1996年に発行されたENUSPのニュースレターでは「元ソ連の新しい国家における精神医療の患者の状況は、社会の混沌とした変化と計り知れない貧困のために、想像が難しい」と説明されている。ジョージアの精神医療の予算は、1つの精神病院の電気代分しかなく、燃料や食品、薬物、科学雑誌の購読料に回す資金がないために、精神病院はほとんど空っぽであり、多くの元患者たちがホームレスとして暮らしているという。他方、ウクライナでは、多くの患者が、それが政府からの食糧配給を得る唯一の手段であるために、病院に入っていた。また、ウズベキスタンでは、元ソヴィエト連邦の法律をすべて無効にし、強制治療に関する新たな法律を用意していたものの、当時は成立に至っていない状況にあった（European Network of Users and Ex-Users in Mental Health 1996: 9-10）。このような状況をジェスパersonは、次のように説明している。

この「まだ強制治療に関する法律が制定されていない」ということは、ウズベキスタンは、すべての患者を病院から解放しなくてはいけないということを意味するのです！しかも、ウズベキスタンにはお金がないので、患者に薬を投与することもできません。つまり、いまウズベキスタンは、世界で唯一、100パーセント強制治療からも向精神薬からも解放された国なのです！（European Network of Users and Ex-Users in Mental Health 1996: 10 □ 内引用者）

第3回総会の頃から、東欧地域では精神障害者による活動が徐々に活発になってきていた。1997年、ブルガリアのソフィア精神保健協会からの依頼で、ENUSPの代表としてジェンセンとゴンボが講演を予定していた。また、ゴンボは、ポーランド、チェコ共和国、ハンガリーで法的な権利擁護やトレーニングをおこなったり、ハムレットトラストが企画した大会でワークショップを担当したりしていた（European Desk 1997）。1998年1月にハンガリーのブダペストで開催された第12回目の理事の会議では、オランダの患者組合の支援によってベルギーで新しいユーザーの団体が活動を始めたこと、チェコ共和

国で新しいユーザー主導の団体が結成されたことが報告された (ENUSP 1998: 10)。

6 まとめ

精神医療専門職の組織、ハムレットトラスト、ENUSP は共に、社会主義体制にあった地域の精神医療の政治目的での利用に批判的であった。その中でも精神医療専門職の組織は医療の改良、ハムレットトラストと ENUSP は、精神障害者の活動の促進による状況の改善を重要視していた。しかし、ハムレットトラストと ENUSP の、活動の仕方は、必ずしも同様であったとはいえない。ハムレットトラストによるトレーニングでは、ハムレットトラストの職員や英国の精神障害者の運動に関わってきた人、ルソなど東欧地域を知りつつ欧州規模で活発に活動してきた人々がトレーナーを務めた。つまり、基本的には、英国などで実践されてきた方法を東欧の人々に教えるという方向であったといえる。少なくとも、東欧地域の精神障害者の活動や生活から、ハムレットトラストが教わるという指向の活動は見られなかった。また、ハムレットトラストは、ENUSP の活動に東欧の精神障害者が参加できるよう経済的に支援し、ENUSP の活動に好意的な姿勢を示していたものの、あくまで本部のある英国を含めた欧州全体ではなく、東欧、中欧など一部の地域の状況の改善に向けた活動というかたちをとっていた。

これに対して ENUSP は、ニュースレターなどで、何度か反省を込めて西欧の運動の方法をそのまま東欧で使えるかのように押しつけてはならないと呼びかけていた。東欧の中には、西側よりもよく組織されている運動体をもっているところがあることを忘れてはならないと戒められていた。さらに、東欧における、財政困難などによって精神病院に人を収容できなくなっていたり、精神障害を理由とした非自発的介入について規定した精神衛生法をまだ制定していなかったりした状態が、欧州の多くの地域よりも遅れているとは必ずしもみなされていなかった。ここから ENUSP は、必ずしも東欧地域の状況は、西欧でおこなわれてきたような自助活動や社会運動を導入することによって改善するとは考えていなかったといえる。

このようなハムレットトラストと ENUSP の考え方の差異は、活動に参加するメンバーの違いが重要な理由の1つであると考えられる。ハムレットトラストのネットワークの組織は、多くが精神医療の専門職によって設立されたものであり、その専門職は精神障害者の組織を運営す

る能力に懐疑的であった。また、ハムレットトラストが開催するセミナーやワークショップは、精神障害者だけでなく家族や医療者も対象として、自助グループや精神医療のオルタナティブな実践を実施する方法を教えるというものであった。他方、ENUSP は、東欧の精神障害者に対して、同じユーザー、サバイバーという立場で、支援をしてきた。また、ハムレットトラストに対して ENUSP は、競合関係にあるという印象を抱いたり、英国の運動との関係に関して疑念を持ったりしてきた。西欧を中心とした ENUSP のメンバーの多くは、精神医療において専門職によって自身の望まない介入を受けてきた経験を持ち、ENUSP のメンバーの組織はユーザー、サバイバーによって運営されていることを条件としてきた。このような経験から ENUSP は、東欧が西欧のような状況になることを望ましいとは思っておらず、東欧地域の精神障害者とハムレットトラストとは異なる関係を築いてきたと考えられる。

以上のことから、西欧を中心とした ENUSP のメンバーは、精神医療のユーザー、サバイバーという立場を基盤として東欧の精神障害者と連帯してきたといえる。このため、精神医療の改善ではなく精神障害者の活動の促進を目指し、その方法として西欧で使われてきた方法を東欧にも導入するのではなく、同じ立場で共に活動しつつ東欧を支援するという方法を選択しようとしたと考えられる。精神医療体制に対する抵抗の仕方や医療者との関係が地域によって異なることは、先行研究が指摘してきた通りであるものの、精神障害者として抑圧されてきた立場は、状況や運動戦略の大きな違いがあっても共有できるものとみなされていたことを運動のトランスナショナルな側面として指摘できる。

〔註〕

- 1) ENUSP の発足時の名称は、「European Network of Users and Ex-Users in Mental Health」であり、1997 年の第 3 回総会で現在の名称に変更された。
- 2) 1990 年代に結成された欧州規模の精神障害者の組織としては、GAMIAN (Global Alliance of Mental Illness Advocacy Networks) 欧州支部とトギャザーが挙げられる。GAMIAN は国際組織だが、1997 年に分裂して欧州支部と米国を中心とした支部ができた。ジェンセンによると、GAMIAN 欧州支部は、「精神医療の患者」を中心とした組織ではあるものの、精神医療や薬物療法は良いという考え方を普及させようとする組織であった (Jensen interview)。トギャザーは、心理療法士を中心とした団体である「ユーロプシ (Europsy)」が運営を支援している組織である。ENUSP のニュースレターによると、トギャザーの理事や代表者は、選挙のような手続なくユーロプシの専門職に

- よって任命されていた。このため、ENUSP はトギャザーをユーロプシの傀儡 (puppet) 組織ではないかと考えていた (European Network of Users and Ex-Users in Mental Health 1996: 13-15)。
- 3) 1999 年あるいは 2004 年以降は、6 つの地域に区分するようになった。
- 4) 「西ドイツ人が東へ行く理由としては、親戚の訪問、ビジネス、あるいは、東の団体が主催する催し物への参加などだけが認められていた」。他方、「東の人間が西に出ることは、ソ連軍関係者を除いては、ほぼ不可能だった。ただ、例外はもちろんあった」。「アルコール中毒者や精神病患者は、皆、西に送り出」されていたほか、「年金生活者は、希望すれば、すぐに出国が認められた。(中略) こういう場合、年金は西ドイツ政府が支払うことになった」(川口 2010: 204-206)。
- 5) 1960 年代から 70 年代にかけて、心理学者のローゼンハン (David L. Rosenhan) による精神医学的診断の精確さに疑義を呈する実験や、米国と西欧では診断の基準が異なることを示した研究などを受けて、1980 年に精神障害の診断と統計マニュアル第 3 版 (DSM-III) が発表された。
- 6) ハンガリーでは、1993 年に最初の精神障害者の家族の組織、翌年、最初の精神障害者の本人の組織が結成された。その両方の立ち上げに関わったのがゴンボである。ゴンボは 1961 年に生まれ、3 歳のとき初めて精神医療にかかわった。叔父が自殺を図り、数カ月後に母親が落ち込んで妄想を抱くようになった。唯一の支えであった母親は、何度も入院しゴンボが独立するかもしれないかという頃亡くなった。ゴンボは、深く落ち込み 1977 年から 1990 年までに 4 回精神病院に入院した。その後、社会運動に精力的に関わるようになり、2001 年にアショカフェローに選ばれ、2010 年には障害者権利条約の条約体の委員に選出された (KI Media 2011)。
- 7) 本研究は、ENUSP が理事を選出する際の地域区分を東欧の範囲としているため、ハムレットトラストが支援の対象としている範囲とはずれている。なお、ENUSP の理事選出の地域区分に国名の載っていないブルガリアからは 2 名の参加者があった。
- 8) 1997 年 5 月 12 日付の、ハムレットトラストのヘイワード (Robert Hayward) からの「Dear Clemens」と題した手紙によると、ハムレットトラストは、渡航できなかったアルバニアの代表の最低限補助に 150 米ドル、エストニアの代表の航空券、国内旅費、最低限補助に 1390 米ドル、ハンガリーの代表の航空券、宿泊費に 440 米ドル、チェコ共和国の代表に 165 米ドル、ブルガリアの代表に 1285 米ドルの合計 3430 米ドルを提供した。
- 【謝辞】
- 本研究の調査は、「日本学術振興会特別研究員奨励費 (18J10684)」の支援を受けて実施した。記して感謝申し上げる。
- 【文献】
- 青木薫久, 1993, 『保安処分の研究——精神医療における人権と法』三一書房。
- Bloch, Sidney and Peter Reddaway, 1977, *Russia's Political Hospitals: The Abuse of Psychiatry in the Soviet Union*, London: Victor Gollancz. (= 1983, 秋元波留夫・加藤一夫・正垣親一 (訳) 『政治と精神医学——ソヴィエトの場合』みすず書房。)
- Crossley, Nick, 2006, *Contesting Psychiatry: Social Movement in Mental Health*, Oxon: Routledge.
- European Desk, 1994a, "Board Meeting London 13-16 August 1994: Final Draft."
- , 1994b, "Minutes of the Kolding Board Meeting December 15-19 1994: First Draft."
- , 1997, "Minutes Board Meeting 8-10 August 1997 in Helsingborg/ Sweden."
- European Network of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry, 1997, "The European Newsletter of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry," 6.
- , 1998, "European Newsletter of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry with World News," 8.
- , 1999, "European Network of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry: Third Conference, Reading, England, 1997, January 3-6," (2019 年 12 月 20 日取得, <http://enusp.org/wp-content/uploads/2016/03/reading.pdf>).
- , 2014, "Statutes of the European Network of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry (ENUSP)," (2020 年 4 月 6 日取得, <http://enusp.org/memorandum-and-statutes-of-the-association-2004a16189jb/>).
- European Network of Users and Ex-Users in Mental Health, 1994, "The Second European Conference of Users and Ex-Users in Mental health," (2016 年 4 月 9 日取得, <http://www.enusp.org/index.php/events-dates/144-second-european-conference-of-users-and-ex-users-in-mental-health>).
- , 1995a, "The European Newsletter of Users and Ex-Users in Mental Health," 1.
- , 1995b, "The European Newsletter of Users and Ex-Users in Mental Health," 3.
- , 1996, "The European Newsletter of Users and Ex-Users in Mental Health," 5.
- Hamlet Trust, 2020, "About hamlet Trust," (2020 年 5 月 29 日取得, <http://www.hamlettrust.plus.com/about.html>).
- Human Rights Watch and Geneva Initiative on Psychiatry, 2002, *Dangerous Minds: Political Psychiatry in China Today and Its Origins in the Mao Era*, New York: Human Rights Watch.
- 伊東香純, 2019, 「ヨーロッパの精神障害者の組織の発足の過程」『立命館生存学研究』2: 203-212.
- 川口マーン恵美, 2010, 『ベルリン物語——都市の記憶をたどる』平凡社。
- KI Media, 2011, "Speak Truth to Power in KI-Media Series: Gabor Gombos (Hungary) "Mental Disability Rights," (2019 年 11 月 29 日取得, <http://ki-media.blogspot.com/2011/07/speak-truth-to-power-in-ki-media-series.html>).
- Lehmann, Peter, 2009, "A Snapshot of Users and Survivors of

- Psychiatry on the International Stage” translated by Christine Holzhausen, *Journal of Critical Psychology, Counselling and Psychotherapy*, 9 (1): 32-42.
- Lehmann, Peter and Maths Jespersen, 2007, “Self-help, Difference in Opinion and User Control in the Age of the Internet,” Peter Stastny and Peter Lehmann eds. *Alternatives beyond Psychiatry*, Berlin: Peter Lehmann Publishing, 366-380.
- 松嶋健, 2014, 『プシコナウティカ——イタリア精神医療の人類学』世界思想社.
- Medvedev, Zhores A. and Roy A. Medvedev, 1971, *A Question of Madness: Repression by Psychiatry in the Soviet Union*, London: Macmillan. (= 1977, 石堂清倫 (訳) 『告発する! 狂人は誰か——顛狂院の内と外から』三一書房.)
- Morrison, Linda J., 2005, *Talking Back to Psychiatry: The Psychiatric Consumer/ Survivor/ Ex-Patient Movement*, New York and Oxon: Routledge.
- Rose, Diana and Jo Lucas, 2007, “The User and Survivor Movement in Europe,” Martin Knapp, David McDaid, Elias Mossialos and Graham Thornicroft eds. *Mental Health Policy and Practice across Europe: The Future Direction of Mental Health Care*, Berkshire: Open University Press, 336-355.
- Tomov, Toma, Robert Van Voren, Rob Keukens and Dainius Puras, 2007, “Mental Health Policy in Former Eastern Bloc Countries,” Martin Knapp, David McDaid, Elias Mossialos and Graham Thornicroft eds. *Mental Health Policy and Practice across Europe: The Future Direction of Mental Health Care*, Berkshire: Open University Press, 397-425.
- Van Voren, Robert, 2010, *Cold War in Psychiatry: Human Factors, Secret Actors*, Amsterdam and New York: Rodopi.

Solidarities across different circumstances: Activities of Europe-wide organization of persons with psychosocial disabilities in Eastern Europe

Kasumi ITO

Previous studies on the social movements of persons with psychosocial disabilities predominantly focus on movements based in the United States and the United Kingdom, and analyze insistences against the Western mental health system. In doing so, they overlook the transnational aspect of such movements. This paper aims to reveal how Europe-wide organization of persons with psychosocial disabilities has been active in Eastern Europe by describing the histories of the European Network of (Ex-) Users and Survivors of Psychiatry (ENUSP) from 1991 to 1999. This paper analyzes related documents and interviews with four activists of the ENUSP during that period. The results revealed that the main intent of the ENUSP was to develop social movements, rather than to reform the mental health system. In addition, members of the ENUSP considered people with psychosocial disabilities in Eastern Europe as their peers and did not intend to force Western approaches on Eastern areas.

Keywords : persons with psychosocial disabilities, Eastern Europe, social movements, mental health, psychiatry